

河西 勝ゼミⅠ・Ⅱ

KASAI Masaru Seminar I・II



河西 勝
経済学科
教授

川村 雅則ゼミⅠ

KAWAMURA Masanori Seminar I



川村 雅則
経済学科
准教授

財政再建下の夕張市民の暮らしの現状と政策課題

研修目的

2008年に引き続き、夕張を訪問して調査活動を行った。新たに策定される再生計画（2010年度以降適用）に市民の「声」を反映させるため、財政再建下の夕張で暮らす市民の暮らしの実態をトータルに明らかにすることを目的とした。

● 研修地 — 夕張市

研修期間・研修先

- 6月 調査研究計画の検討開始
- 7月 現地協力者との打ち合わせ
- 8月 事前学習
- 8月17日~23日 現地（夕張）入りし、終日、市内で各戸を訪問し、聞き取り調査活動
- 8月下旬 訪問しきれなかった世帯を対象にアンケート調査を実施
- 9月 道庁・道政記者クラブで調査結果を発表
- 11月 調査報告書を発行

総 括

財政再建下の夕張市民の暮らしの実態を明らかにするため、「夕張再生市民アンケート実行委員会」なる組織を、現地有志と法政大学関係者とともに立ち上げ、8月17日から23日までの1週間、夕張市内の各戸を訪問し市民から聞き取り調査活動を行った。調査では461世帯から話しを聞くことができた。さらにその後、訪問しきれなかった世帯に対しては郵送方式によるアンケート調査を行い、709世帯から回答を得ることができた。

調査の内容は、回答者本人の属性や世帯構造にはじまり、医療や介護での困り事、交通や再建後の地域の状況、仕事に関する状況、生活・暮らしぶりの実態や困り事など多岐にわたる内容だった。

両調査の有効回答を合計すると、調査当時の夕張の全世帯数である6180世帯の2割弱に及んだ。そこから浮かび上がってきたのは、たしかに、ときにテレビ報道などがセンセーショナルに描くような危機的状況に夕張市民の全てがおちいつているわけではないものの、「果たして夕張は再生可能なのか」「借金を返し終えた後に夕張は残っているのか」などの市民に声に象徴されるような、将来に展望が見えない、あるいは、弱い層から順に夕張で暮らし続けていくことができなくなっている状況だった。具体的には、失職した・仕事が見つ



現地入りして即説明会



聞き取り調査中

学生研修記



人口流出のひどさ

赤澤 友輔
経済学科2年
旭川凌雲高校出身

今回、私たちのゼミは川村ゼミと合同で、財政再建団体入りした夕張市民の生活の実態を調べるために聞き取り調査を行いました。

その中で印象的だったのは、比較的金銭に余裕のある人や、身寄りのある人は他の街へ移動していて、主に一人暮らしの老人が夕張に残っていくということでした。このような人口流出がおこる原因としては、借金返済で全国一の住民負担が課せられ、公共サービスがますます低下していくことが考えられます。人口流出を食い止めることと借金を返していくことの二つを同時に行っていくことは、非常に難しいことだと感じました。

今回、このような聞き取り調査は初めての経験だったので、実際に住んでいる人の話を聞くことができて、刺激を受けました。今回の研修でお世話になった市民の方々、ありがとうございました。



難しい聞き取り調査



山積みアンケート用紙



今日はどう動くか



報告書作成討論会



始まりとしての地域研修

中山 優介
経済学科2年
倶知安高校出身

河西ゼミはこの夏、財政破綻後の夕張市民の生活の実態を調査するため夕張を訪れました。現行の財政再建計画がもたらす住民負担の増加による生活の貧窮を浮き彫りにし、国、道、国民に事実として認識してもらおうというのが、今回の調査の主な目的でした。実際の調査なのですが、質問内容が世帯の構成から年取に至るまで多岐にわたったことと、住民の方々のご協力のおかげもあって、夕張市民の生活の実態を把握するという目的は、ある程度の成果を取めたと思います。しかし夕張市民の生活が貧窮であるという現状認識の全国的な広がりに対して、「では今後の夕張をどうするか」という問いへの何らかのアプローチが、今回の研修で抜け落した課題として残っているのも事実です。そのような課題が残っている以上、地域研修は終わりを伴わない始まりだと、僕は思わずにはられないのでした。



「夕張再生市民アンケート調査報告書」
2009年11月、夕張再生市民アンケート実行委員会発行



大学にて



1週間の調査を為し遂げて



地元関係者からの説明



調査の説明



熱心に説明を聞く

からない、ダブルワークをしているが生活が苦しい、医療や介護での問題（市外への通院が負担、救急医療体制が不備、老老介護、独居の認知症高齢者）、クルマがなくて通院や買い物が不便、知人の転居等で地域のつながりがうすれてきた、近くのお店が廃業になって買い物が大変、お年寄りだけで除雪が困難、役場の連絡所が廃止され困った時の相談先がない、などなど、聞き取りやアンケート紙面には切実な訴えが多数寄せられた。現行の再建計画は期間内の借金の返済だけを前提に機械的につくりあげた、かなりの無理をはらんだものであり、2010年度以降の再生計画には、夕張市民の暮らしの実態が反映されることを強く願う。

ところで補足になるが、一点目は、私たちの活動・調査の結果はマスコミ等を通じて報じられたほか、2009年11月に発行した「夕張再生市民アンケート調査報告書」はいろいろな場所で利用されているとのことである。これまで夕張でいろいろのお世話になったことへの貢献が一定程度果たせたかなと嬉しく思っている。二点目は、調査では、十分な知識もない学生が自宅に上がりこんで、何時間もお話を聞かせていただくケースも少なくなかった。学生はこの調査活動を通じて大きく成長したと思う。夕張のみなさんにはあらためて深く御礼申し上げる次第です。



聞き取り調査のようす



自宅に上がりこんで

学生研修記



これからの夕張は？

内藤 泰葉
経済学科2年
北海高校出身

私たちは夕張市内全世帯を対象に、生活の困りごとや財政再建団体入り後の地域の状況などを聞き取りました。中でも特に多かった困りごとは、「救急体制」「除雪体制」の不備です。今の夕張の救急体制は、救急車が来ても搬送先が見つからず、1時間2時間もその場に留まっているという実例があり、命のかかわることなので、そのような救急体制では不安を拭いきれない住民が多かったです。また、除雪体制では、市で行う除雪の積雪量が10cmから15cmになり、高齢者にとってはかなりの負担になっていました。

その他にも、夕張は高齢者が多いので高齢者の方にばかり注目してしまいがちですが、これからの夕張を支えていく現役世代にも、教育費の負担や子どもの生活環境について不安を抱いている人も多く、人口流出が進む夕張市にとって、住民の生活維持は重要な課題になるのではないのでしょうか。



夕張市での研修を振り返って

藤井 佑也
経済学科2年
美幌高校出身

今回の調査では一週間に渡って住宅を訪問して聞き取り調査を行った。夕張市の人口約5割程度が高齢者で占められているのには驚いた。実際に調査してみると交通のインフラが非常に悪く、バスが一時間に一本あるかないかの水準で、学生が通学で利用しない土日にはもっと本数が減る。診療所に行きづらい、買い物に行きづらいなどの不便さを語る住民が多かった。改善すべき問題は山積みなのだが、財政再建団体入りしたため中々柔軟に事業を行うことができない現状を感じた。人口も年々減少していて、若者は就職先がないので市外に出てしまう。18年で市は借金を返済すると言うが、その間市民の生活が良くならなければ、借金がなくなっても意味がないのではと思う。この調査によって自分自身が得たものは大きく、テレビや新聞だけでは伝わらない、住民の生の声を聞くことができ、貴重な経験になった。



道はたにて聞き取り調査



地図を片手に移動中



調査で話はずむ



調査データの入力